

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンドイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.8

共済部会 第2回活性化部会

(産業・観光・行政経営分野)
主な議事:分野別方針<観光、大学、国際化>の検討
開催日:平成21年12月15日(火)
会場:京都市国際交流会館

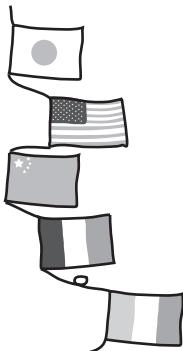


レポーター 簡 吟馨さん

2005年台湾师范大学文学部地理学科卒業。
2002~2003年立命館大学交換留学。
2005~2007年台湾NEC株式会社。
2008年京都大学経済学部研究生。
2009年京都大学経済学研究科

会議のポイント

POINT 1. 国際的スケールの 会議施設の整備が不十分



観光都市としての質を上げる点で、施設面での問題があります。例えば、現在、5,000人収容できる国際会議場が京都にありません。世界的な学会や催物を行うのに、十分なスペースがなければ、他の都市で開催することになってしまいます。京都全体で後押ししていくようなことが必要です。

この会議を傍聴して、 簡さんが思ったこと。

まず、市から観光、大学、国際化の三つのテーマについての分野別の報告があり、その報告内容についての議論が行われました。分野別の資料には、これからの方針と目標が明確に掲げられ、いろいろな提案が出されました。委員の皆さんにはそれぞれ異なるバックグラウンドがあり、様々な切り口からアイデアが出され、面白かったです。京都のために貢献したいという強い熱意を感じました。

POINT 2. 学生に住みやすい町を作ろう



生活費は、留学生である私も含め、学生にとって大きな問題です。世界では、国レベルで学生のための施策が行われています。フランスでは、サルコジ大統領が、EU加盟国、あるいは長期滞在する青少年を対象に国立の美術館等の入場料を無料にすると発表しました。京都でも、このような施策を行い、学生に優しいまちづくりをしてもらいたいです。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた簡さんの提案

1.心に残るほんものを伝える京都観光を提供します！

京都の魅力は形式的なものではなく、「中身」にあります。この美しさを観光客に伝え、より京都を知ってもらい、愛してもらいたいです。華道の体験や町家めぐりツアーなど、京都固有の文化的価値や美意識を広く宣伝し、心に残るほんものの京都観光を提供してはどうでしょうか。

2.交流の場のある魅力的な大学を作ります！

北欧では、自動販売機ではなく、キャンパスのどこにでもソファーのある小さな「カフェスペース」があります。一方で、京都の大学には、学生寮が不足しています。北欧のようなカフェスペースの導入や、留学生と日本人学生が助け合いながら暮らせる寮を作ることにより、京都独自の交流の場のある、魅力的な大学が実現するのではないかでしょうか。

U35については、こちらをご覧下さい。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

